

令和2年度 東京都内湾水生生物調査 2月成魚調査速報

●実施状況

令和3年2月25日に成魚調査を実施した。調査当日は大潮で、干潮が10時15分、満潮が15時38分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は2.3~4.8mであった。また、全地点で貧酸素状態は確認されなかった(底層のDOは6.9~8.6mg/Lであり、飽和度は62.2~95.4%であった)。全地点で、ハタタテヌメリ等の魚類が確認されたほか、ケブカエンコウガニやエビジャコ、シャコ等の甲殻類も多く確認された。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	9:49-11:00		11:30-12:20		12:35-13:35		13:40-14:20	
水深(m)	25.3		14.2		14.2		8.4	
天候	晴		晴		晴		晴	
気温(°C)	6.8		10.2		14.0		12.9	
風向/ 風速(m/sec)	NNE/2.4		E/1.0		NNW/0.8		NNW/1.0	
波浪(m)	0.2		0.1		0.1		0.1	
透明度(m)	4.8		3.5		2.3		2.5	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	10.6	13.7	10.8	12.5	10.8	12.2	11.1	11.1
塩分(-)	31.6	33.9	30.6	33.0	30.5	32.8	31.2	31.8
DO(mg/L)	9.4	6.9	9.6	7.2	9.9	7.7	9.5	8.6
DO飽和度(%)	106.9	62.2	105.7	93.5	108.2	88.5	105.0	95.4
pH(-)	8.1	8.0	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考								

観測層: 上層(0m)・下層(海底面上1m)

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	ハタタテヌメリ(c) テンジクダイ(+) コモチジャコ(+)	ハタタテヌメリ(+) シログチ(r) カタクチイワシ(r)	ハタタテヌメリ(+) コモチジャコ(r) モヨウハゼ(r)	ハタタテヌメリ(r)
魚類以外 (目立った種)	ケブカエンコウガニ(m) オウギゴカイ(m) クモヒトデ(c)	ケブカエンコウガニ(c) エビジャコ属(+) シャコ(+)	オウギゴカイ(m) ケブカエンコウガニ(c) シャコ(+)	エビジャコ属(+) イッカククモガニ(+) ホンビノスガイ(r)
備考	上記の他、ゲンコ、エビジャコ属、シャコ、テナガテッポウエビ等が確認された。	上記の他、アカエイ、ハナギンチャク、トリガイ等が確認された。	上記の他、タイラギ、イッカククモガニ、ヒラコブシ等が確認された。	上記の他、クシノハクモヒトデ、ケブカエンコウガニ等が確認された。

注)表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

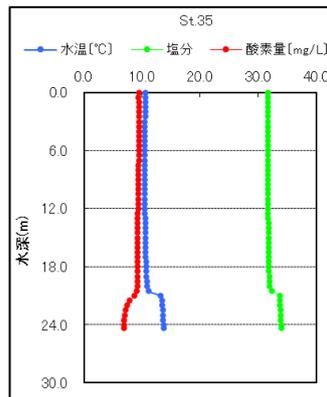
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



東京湾全域に出現し、特に湾奥に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は7~10月で、親魚が卵を口の中にくわえて、孵化するまで保護する習性を持つ。



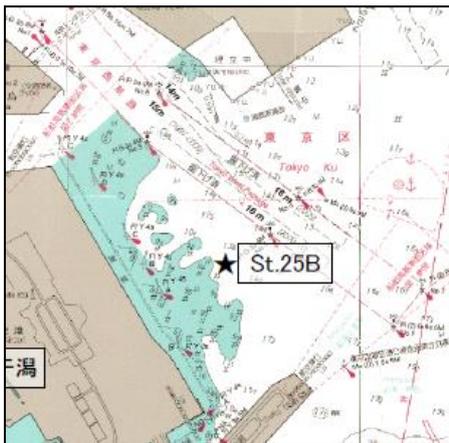
アカハゼに似るハゼの仲間。東京湾全域から出現記録がある。比較的深所の泥底から砂泥底に生息する。産卵期は春。



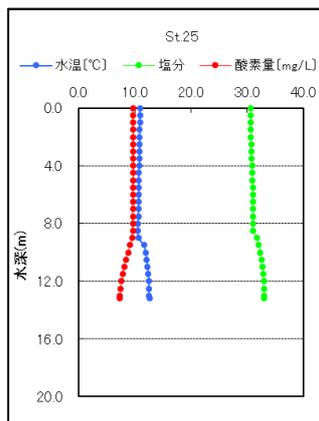
北海道南部以南の日本各地に生息する。東京湾の湾奥ではあまりみられない。砂泥底に生息し、底生生物を食べる。

調査地点：St.25

調査地点位置



水質状況



地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1目盛:1mm



全長14cm程になる。春や秋には、湾奥部に分布するが、夏には湾中央のやや深い場所に分布する。本調査の主要種の1つである。東京湾ではメゴチと呼ばれる。



泥底～砂泥底に生息し、幼稚魚は湾奥の干潟域や砂浜海岸などの浅所で生活する。浮袋を使ってグーと鳴くこともある。東京湾ではイシモチと呼ばれる。



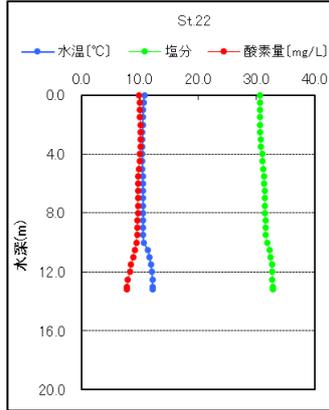
東京湾の表層域では最も個体数の多い魚種であり、大きな群れをなして生活する。下顎が短く、上顎だけにみえることから、片口(かたくち)の名前が付いている。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況

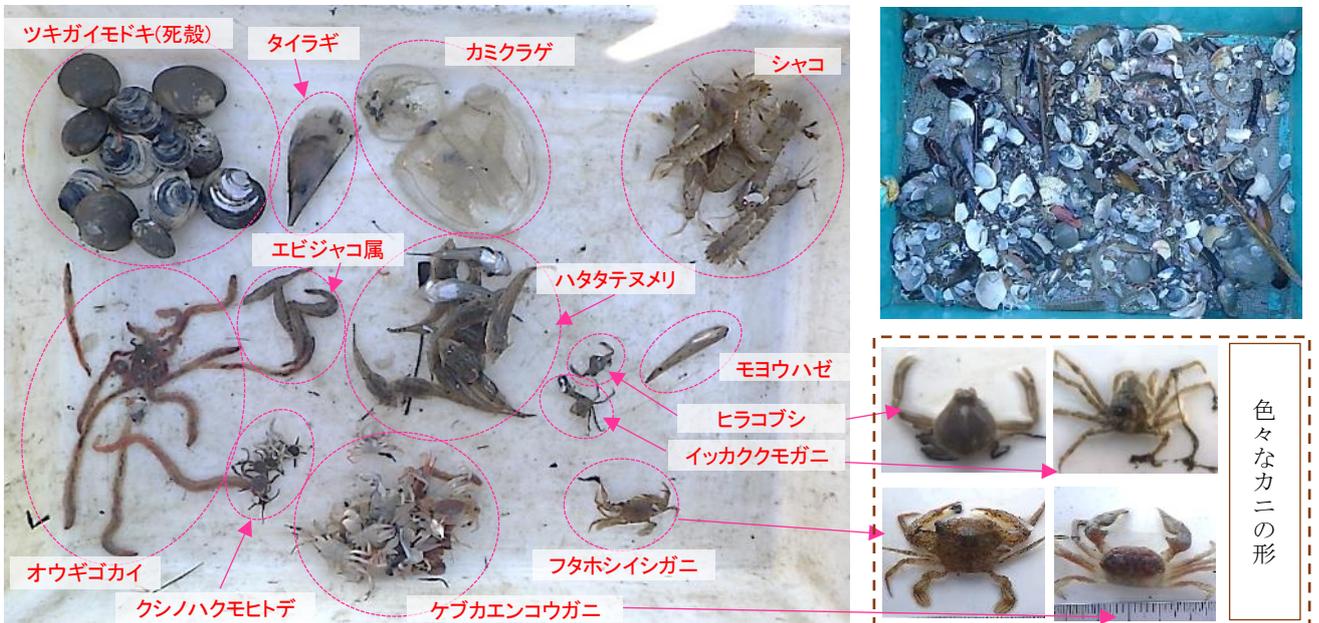


地点状況



北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



全長 8cm 程になる。体側に小さな青色の斑点が散在する。東京湾では湾奥から湾央にかけての水深 10~40m ほどの砂泥底に生息する。



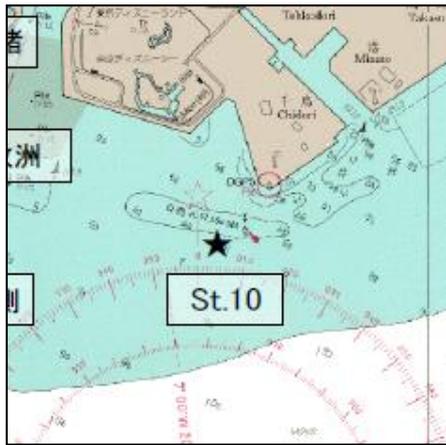
内湾や内海の砂泥底、また河口の汽水域にも生息している。東京湾では湾奥から湾央にかけての水深 15~30m に生息し、甲殻類・軟体動物・多毛類・魚類をとらえて食べる。産卵は 5 月中旬から 7 月上旬。今回調査では、St. 10 を除く全地点に出現した。



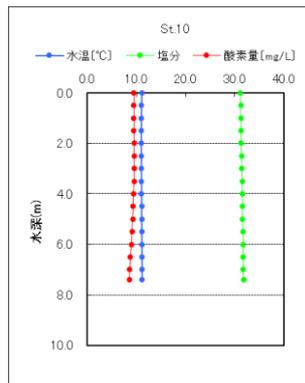
殻長 25cm を超える大型の二枚貝。尖った側を下にして海底に突き刺さったようにして生息している。東京湾の湾奥部では、春から秋にかけて発生する貧酸素水塊で死滅するため、殻長 10cm 程までしか成長できない。

調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況

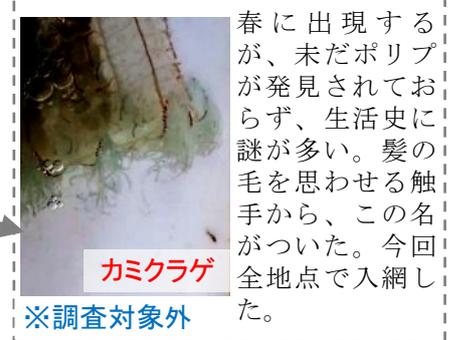


地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



※解説は St. 25 を参照

日本各地の内海、内湾の浅海帯に生息し、干潟の砂泥底で普通に見られる小型のエビ類。砂に潜って隠れる。体色は周囲の環境により変化する。

甲幅 2cm 程になる。甲らは先端の尖った三角形で、歩脚が細長い。外来種であり、有機汚染の進んだ都市圏の港湾や内湾の砂泥底に多い。貧酸素に比較的強く通年で繁殖する。